

プロジェクト研究「原発事故後の福島を考える」(PJ-F)

研究代表者：朝岡幸彦（東京農工大学）

日本環境教育学会は東日本大震災と福島第一原発事故を機に原発に関する勉強会などを行う「原発事故のはなし・授業案作成ワーキンググループ」を結成し、2014年には『授業案・原発事故のはなし』（国土社）を出版しました。2016年度から福島の「今」を知り、そこから私たちにできることを考えるため、「原発事故後の福島を考える」プロジェクト研究（以下PJ-F）に取り組むことになりました。

プロジェクト研究チームでは、東日本大震災後の、福島での教育現場の状況や、環境教育的視点から見た学びのあり方について、復興の一助となることを目的とした長期的な調査・研究を計画しています。今年6月10日～12日の日程で、第1次調査として、震災以降に当学会とご縁の深い南相馬市を訪れ、福島県立相馬農業高等学校では、高校生が主体となって整備・研究している「ハマナス福幸植樹会場」の現地視察と復興活動報告、さらに教員とのディスカッションを行いました。また小高区の日鷲神社・西山典友宮司や、鹿島区内仮設住宅4ヶ所の集会所を活用したコミュニティ・サロン「癒しのサロン」の発起人・今野由喜氏（NPO法人つながっぺ南相馬理事長）などの方にインタビューしました。小高区は今年7月12日に5年4ヶ月ぶりの避難指示解除となり、住民の本格的な帰還がようやく開始されるため、今後の動向にも着目したい次第です。

今後はプロジェクト研究として、年に2回、今後5年間の調査を予定しており、学生や学校現場の先生に向けた福島スタディツアーの企画・開催をも検討しています。

第27回大会（学習院大学）では、福島県立相馬農業高校の生徒さんたちを招き、震災・原発事故後5年を経た福島県南相馬市の現状と地域再生に向けた取り組みについて議論します。

<問題提起> 東日本大震災・原発事故から学ぶべきもの

: 阿部治（立教大学 / ESD 活動支援センター長）

<報告1> PJ-F 第1次調査報告：太刀川みなみ（第1次調査団事務局）

<報告2> 福島県立相馬農業高校農業クラブの活動：農業高校の生徒さんたち

<今後の活動> PJ-F 第2次調査について：小堀武信（第2次調査団事務局）

<コーディネーター> 林丈雄（東京農工大学・非常勤講師）